

## ～オリンピックにおける『文化プログラム』の位置づけ～

以下のように、「文化プログラム」の実施は、**オリンピック開催国の義務**である。

### ◆「オリンピック憲章」より

- ・オリンピズムは、人生哲学であり、肉体と意思と知性の資質を高めて融合させた、均衡のとれた総体としての人間を目指すものである。**スポーツを文化と教育と融合させることで**、オリンピズムが求めるものは、努力のうちに見出される喜び、よい手本となる教育的価値、社会的責任、普遍的・基本的・倫理的諸原則の尊重に基づいた生き方の創造である。(根本原則)
- ・オリンピック競技大会組織委員会は、短くともオリンピック村の開村期間、**複数の文化イベントのプログラムを計画しなければならない**。このプログラムは、IOC理事会に提出して事前の承認を得るものとする。  
(第5章・第39条)

### 【近代オリンピックにおける文化の取り上げ方】

- ※ 近年の『文化プログラム』は、規模・質ともに、五輪開催期間を超えて、長期化・大規模化している。→ オリンピックは、「**スポーツと文化の祭典**」となってきている。
- ① 文化的要素がない(第1回アテネ～第4回ロンドン)[1896～1908年]
  - ② 芸術競技の時代(第5回ストックホルム～第14回ロンドン)[1912～1948年]
  - ③ 芸術展示の時代(第15回ヘルシンキ～第24回ソウル)[1952～1988年]
  - ④ 文化プログラムの時代(第25回バルセロナ～第29回北京)[1992～2008年]  
**(過去最大規模の文化プログラムの実施(第30回ロンドン)[2012年])**

吉本光宏氏作成「ニッセイ基礎研究所 基礎研レポート2012-09-05 文化の祭典  
ロンドンオリンピックー東京オリンピック2020に向けて」を参考に、文化庁にて作成

## 2012年ロンドン大会の概要について

### 【開催概要】

- ・開催時期: **北京五輪終了時(2008年9月)からロンドン五輪終了時(2012年9月)まで**  
〈集中開催: 2012年6月21日(五輪開催1か月前)～9月9日(五輪閉幕日)の12週間〉
- ・参加国・地域数: **204**(オリンピック・パラリンピックの参加国・地域数)
- ・開催場所: 英国全土で**1,000箇所以上**
- ・事業数: **約600件** イベント総数: **177,717件** (音楽、演劇、ダンス、美術、文学、ファッション、映画、展示会、ワークショップ等)
- ・参加アーティスト数: **40,464人**(うち6,160人が若手、806人が障害者)
- ・新作委嘱: **5,370作品**
- ・関係機関間の連携(文化芸術団体、教育機関、企業等): **10,940件**
- ・総参加者数: **約4,340万人**
- ・実施機関: 組織委、アーツカウンシルイングランド、文化・メディア・スポーツ省(国)、ロンドン市、レガシートラストUK、その他自治体等

### 【国事業の例】

【世界シェークスピアフェスティバル】 → シェークスピアの戯曲を37カ国による37の異なる言語で実演

【リバー・オブ・ミュージック】 → 英国内6箇所で、オリンピック参加国204の国々の代表作を実演

【アンリミテッド(Unlimited)プロジェクト】 → 身体に障害を持つアーティスト806名が参加するイベントを実施

【児童による映画製作】 → 3万4千人の児童にアニメの描き方を教え、児童が映画の製作に参加 など

### 【文化プログラムによる効果】

#### ①文化レベルの向上

- ・新たな作品の創造(5370作品の誕生)、文化、企業、教育、自治体等の**新たなパートナーシップの誕生(10,940)**
- ・文化プログラムで創出されたプロジェクトの半数が2012年以降も継続(ファンディング等により)。

#### ②幅広い層の文化活動への参画

- ・参加者4,340万人。参加者やメディアにおける高い評価。参加者アンケートで8割以上が期待以上と回答。

#### ③観光産業への貢献

- ・外国人観光客の集客は、**2012年から2013年で約5.2%の伸び率。**
- ・2012年の英国の国のブランドランキングでは、文化関連の項目の評価が向上(1ポイント)したことにより、**英国は1つ順位を上げて4位に。(ロンドンのブランドランキングは、2012年に1位に。)**

#### ④自国文化の誇り、自信の掲揚等

- ・81%の英国国民が、五輪大会と文化プログラム等の関連イベントを通じ、より自国を誇りに思うようになったと回答。
- ・子ども・若者の精神面やスキル形成にプラスの影響(40%のプロジェクトが子ども・若者をターゲットに。参加者の61%は18歳以下。)
- ・障害者への理解、障害者アーティストの活躍の推進(806人の障害者アーティストが参加、著名な文化施設等で障害者作品の展示・公演の機会が促進)

## 趣旨

「文化芸術立国」の実現のために、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会及びラグビーワールドカップ2019の機会を活かすとともに、それ以降も多様な文化芸術活動の発展や、文化財の着実な保存・活用を目指し、組織委員会、関係省庁等と連携して、2016年秋から全国津々浦々で文化プログラムを推進。

【文化庁の取り組む文化プログラム「文化カプロジェクト(仮称)」の数値目標】

・20万件のイベント ・5万人のアーティスト ・5000万人の参加 ・訪日外国人旅行者数2000万人に貢献

## 文化庁が進める取組の三つの枠組み

### 1. 我が国のリーディングプロジェクトの推進 (国が主導するプロジェクト)

日本各地での文化芸術によるレガシー創出に向けた基盤的な取組を推進  
(文化芸術プロデューサー人材等の育成、新たな文化×産業の拠点の形成、日本文化の再発見とその魅力の発信)

### 2. 国が地方公共団体、民間とタイアップした取組の推進

日本遺産、文化芸術による地域活性化・国際発信事業、劇場音楽堂等活性化事業等を支援

### 3. 民間、地方公共団体主体の取組を支援

地域の祭りをはじめ、我が国の多様な文化芸術を継承、発展させる全国津々浦々の文化芸術に関する取組を支援

# 上野「文化の杜」新構想について

## 上野「文化の杜」新構想とは

### ■世界最高水準の芸術文化都市へ

上野は、日本屈指の文化施設を誇り、ロンドンやパリ等、世界を代表する芸術文化都市に比肩するポテンシャルを有している。

2020年を目処に上野地区で国内外から**3000万人**の集客を目指す。(2013年:有料入場者数:1300万人)

## 新構想の検討・実施状況

宮田学長(東京芸術大学)と青柳長官(文化庁)を発起人とし、上野の各文化施設、教育機関、自治体、国等で構成する「推進会議」を2013年12月に設置。その下に、具体的な検討を担うワーキンググループを置き、検討を実施。

- 2014年 8月 新構想中間報告を発表
- 2015年 1月 上野「文化の杜」シンポジウム開催
- 5月 新構想を推進する実行委員会を関係機関で概ね合意
- 7月 新構想推進する体制を踏まえ、推進会議を開催(22日)、新構想まとめ
- 9月 **実行委員会始動**～(2日事務所開き)
- 2016年 1月 共通入場券(UENO WELCOME PASSPORT)販売(28年1月～5月)
- 3月 上野「文化の杜」ロゴマーク発表、ポータルサイト始動  
上野「文化の杜」文化プログラムシンポジウム開催(3/21)
- 5月 上野「文化の杜」新構想推進会議開催(アクションプラン2016策定)
- 10月 スポーツ文化ワールドフォーラム開催時のイベント実施(検討中)

	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29) ~
文化の杜 工程	上野「文化の杜」 新構想(中間まとめ)	新構想推進体制 構築	実行委員会設置事業実施～ ・文化プログラム実施、共通パスポート試行、ポータルサイト構築 ・上野駅公園口整備、アートクロス整備 等	